

昨日登ったエクラン山群ドーム・ド・ネージュ (4015m) を反対側から見るためにラ・ベラルドの村を訪れた。エールフロワド村からブリアンソンまで戻りグルノーブルへ向かう。ラ・クラブを過ぎて村への分岐点から山岳地帯に入るが村までの切り立った谷を見下ろす狭い道路のドライブは極めてスリリングで車の往来があるとすれ違うのが大変な道であった。

この村は新田次郎の「アルプスの谷 アルプスの村」の中にも登場する。当時に比べると駐車場や観光案内所が整備され少しは観光施設が増えているが、夏だけ賑わう片田舎の姿は変わっていない。

観光案内所で村の歴史が紹介されているが、このような谷奥への入植は大変であったと想像できる。1800年代後半になるとアルピニズムの波がエクラン山群にも押し寄せるようになり、村にはホテルなどの施設が造られた。エクランの初登攀は著名な英国人登山家ウィンパーによって1865年6月25日に成された。「アルプス登攀記」にその様子が描かれている。

宿泊施設はホテル1軒と民宿らしき宿1軒、それに新しくユース形式の宿泊施設が造られていた。私たちはこの施設に2泊した。リーズナブルな料金で2段ベッド2つの4人部屋を2人で使用でき、ゆったり過ごすことができた。当初予定していた新田次郎が宿泊した「ホテル・デ・グラシエ (ホテル氷河)」は閉鎖されていた。

村に着いた翌日は雨のため1日休養することにし、その次の日、ラ・メイジュやエクラン山群などを見るためテト・ド・ラ・メイユ (2516m) の山頂まで登ることにした。山頂には方位盤があり、360度の展望が得られる素敵な場所であった。雲の晴れ間から見える登頂後のエクラン山群を感慨深く眺めながら満ち足りたひと時を過ごした。



村の民家・屋根はトタン葺きである



村の教会とテト・ド・ラ・メイユ (2516m)・頂上は見えない



ホテル・デ・グラシエ (ホテル氷河) 閉鎖中



新しく建てられた宿泊施設



エクラン山群



ガスの中のラ・メージュ山群



テト・ド・ラ・メイユ山頂 (2516m)  
にある山岳方位盤